

Hitachi Koki

POWER TOOLS for PROFESSIONAL

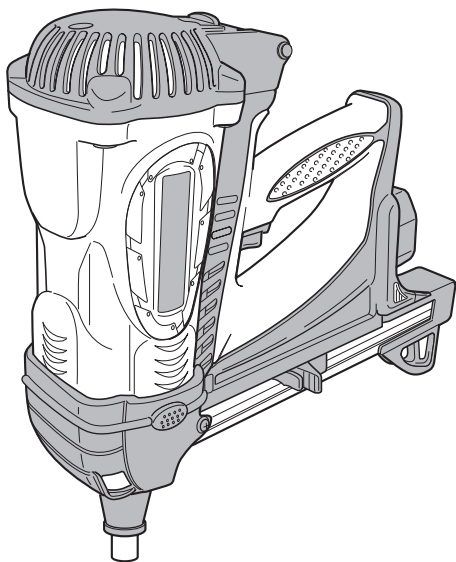
取扱説明書

用途

- コンクリート施工の間仕切りランナー取付け作業
- 配線サドルバンド留め作業
- コンクリートへの木材取付け作業

日立 ガスコンクリート釘打機

NC 40GA



このたびは日立 ガスコンクリート釘打機をお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

ガス釘打機の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	10
各部の名称	11
標準付属品	11
仕様	12
別売部品	13

はじめに

蓄電池の取付け・取りはずし	14
電池残量表示について	14
充電する	15
釘の装てん	17
釘の打ち方	18
ガス缶の準備と装てん	19
釘を打つ	21

使い方

保守・点検	23
使用済ガス缶の処理	28
故障かな…というときは	29
ご修理のときは	裏表紙

その他

HITACHI

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」、「⚠注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

ガス釘打機の安全上のご注意

ガス釘打機は、従来のエア式釘打機の構造とは異なり、本体内部で燃料ガスと空気の混合物に点火・燃焼させ、そのエネルギーで釘を打つ構造です。

釘打機、ガス缶、蓄電池、充電器の取扱いについては取扱説明書をよく読み、十分注意して使用してください。

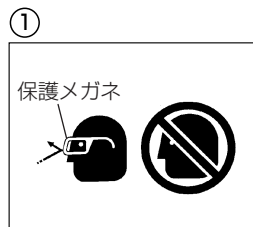
- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
釘を連結しているプラスチックおよびコンクリートの破片や、打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。



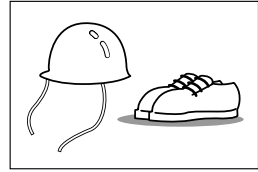
② 専用のガス缶、蓄電池、充電器を使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定のガス缶、蓄電池、充電器を使用してください。
指定以外のガス缶や蓄電池を使用すると、爆発や火災、破裂の恐れがあり、事故の原因になります。

警告

- ③ 釘打機の打撃音などから耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。
- ⑤ きちんとした服装で作業してください。
- ⑥ ガス缶、蓄電池を取付ける前に、次の点検をしてください。

④



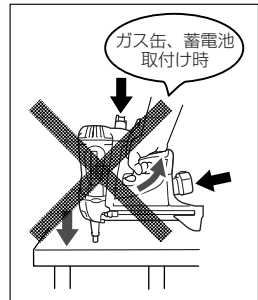
- ねじ類がゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- フィーダーノブを後ろに引き、引金とプッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

- ⑦ ガス缶、蓄電池を取付けるとき、釘を装てんするときは、次のことに注意してください。

- 引金に触れない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。
誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

⑦



- ⑧ 釘、ガス缶を装てんする前に、蓄電池を取付け、次の点検をしてください。

- 蓄電池を取付けただけで、作動音がしないこと。
プッシュレバーを押し付けると、ファンが回転しますが、これは異常ではありません。
- 発熱や異臭、異常音がしないこと。

異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

警告

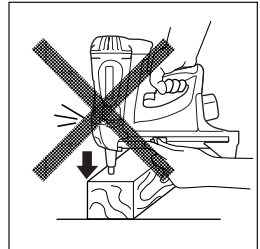
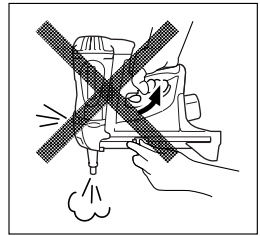
⑨ 使用前に安全装置の点検をしてください。

この釘打機は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。釘を装てんする前に、必ず次の点検をしてください。釘を装てんしないで、ガス缶と蓄電池だけを取付け、

- フィーダを後ろに引きながら、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てない状態で引金を引いたとき、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- フィーダを後ろに引きながら、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。

ファンが回る音がしますが、異常ではありません。異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑨



⑩ 用途にあった作業に使用してください。

- この釘打機は、木材を介してコンクリートへ釘打ちする作業と薄鋼板をコンクリートに釘止めする作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑪ 指定の釘を使用してください。

- 指定された釘以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑫ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、釘打機やガス缶、蓄電池、充電器、充電器のコードに触れさせないでください。
けがの原因になります。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
けがの原因になります。

⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

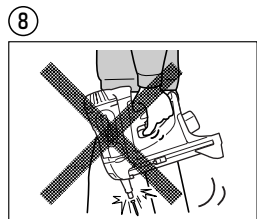
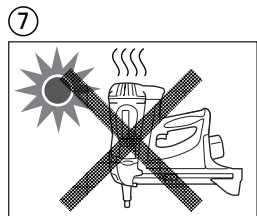
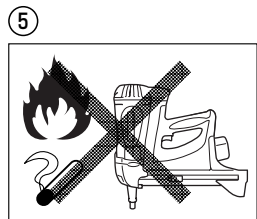
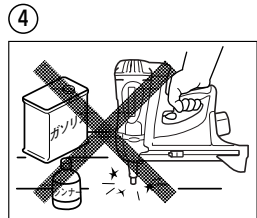
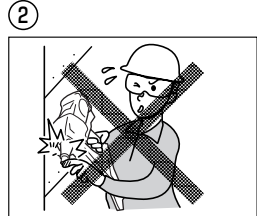
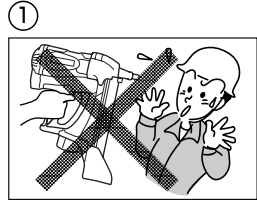
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

警告

作業中

- ① 人体に射出口を向けないでください。
 - 人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ② 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
 - 誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ③ 釘を打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。
 - 釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。
- ④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
 - 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、釘打機や充電器を使用しないでください。
 - 釘を打ち込むときの火花による引火や、高圧の排気ガスで、爆発や火災を引き起こす恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑤ 火気に近づけないでください。
 - 作業中はタバコを吸わないでください。
- ⑥ 排気口周辺を触らないでください。
 - この釘打機は排気口から熱い排気ガスが出ます。誤って触るとやけどの原因になります。
- ⑦ 釘打機、ガス缶、蓄電池は直射日光を避け、温度が40°Cを超えるところには保管しないでください。
 - 爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑧ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指をかけたり、プッシュレバーを押し付けしないでください。
 - 引金に指をかけたり、プッシュレバーを押し付けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
 - 釘を装てんするときや調整などをするときには、引金に指をかけたり、プッシュレバーを押し付けしないでください。誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。



警告

⑨ 次の場合は、ガス缶、蓄電池、釘をはずしてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩ 釘を装てんする場合は、ガス缶、蓄電池をはずしてください。

⑪ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
釘がはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑫ 作業中はまわりの人に注意してください。

- 釘を連結しているプラスチックおよびコンクリートの破片や、打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑬ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

- 薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれて、けがの原因になります。

⑭ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

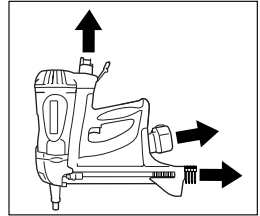
⑮ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

- 打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれて、けがの原因になります。

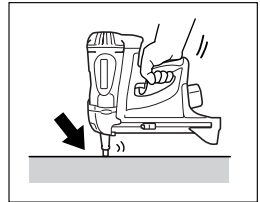
⑯ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
けがの原因になります。

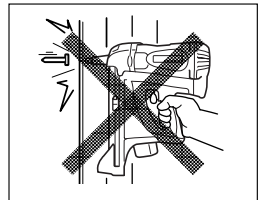
⑨



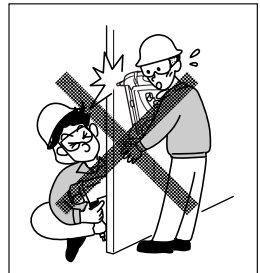
⑪



⑬



⑮

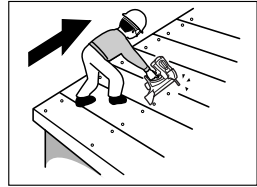
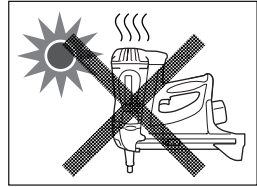


警告

⑰ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 釘打機やガス缶、蓄電池、充電器を直射日光に当てたまま放置しないでください。
ガス缶が破裂するなど、事故の原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑰



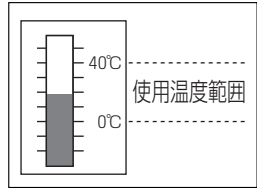
⑱ 風通しの悪い場所で使用しないでください。

- 機体から排出される排気ガスを吸込むと健康を損なう恐れがあります。

⑲ 適切な使用温度範囲で使用してください。

- この機体の適切な使用温度範囲は0°C～40°Cです。
0°C以下では、機体が正しく動作しなくなる恐れがあり、40°C以上では、ガス缶、釘打機が損傷し、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑲



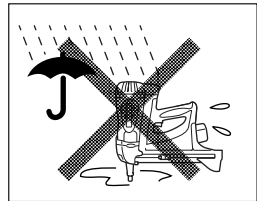
⑳ 雨の中や湿気の多い場所では使用しないでください。

- 感電や発煙の恐れがあります。

㉑ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

㉑

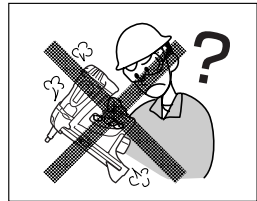


㉒ 落としたり、ぶついたりしないでください。誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

㉓ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

- そのまま使用していると、けがの原因になります。

㉓



警告

作業後

① 作業後は、ガス缶、蓄電池をはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

- 釘を残しておく、次に使用するとき、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。

② 釘打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品のお手入れは、取扱説明書に従ってください。

③ 使用しない場合は、収納ケースに入れ、きちんと保管してください。

- 乾燥した風通しのよい場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
 - 作業が終了したり、中断して現場を離れるときには、釘打機、ガス缶、蓄電池を現場に放置しないでください。
 - 釘打機、ガス缶、蓄電池を直射日光が当たったり、温度が40°C以上に上がる可能性がある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。
- 蓄電池は劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。ガス缶はガスが漏れたり、容器が破裂したりする恐れがあり、火災や爆発といった事故の原因になります。

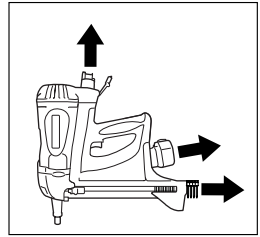
④ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

- 安全性が損なわれ、けがの原因になります。

⑤ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
- ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

①



ガス缶について

① ガス缶の取扱いに注意してください。

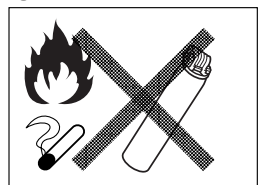
- ガス缶には、高圧の燃料ガスと噴射ガスが充てんされています。

ガス缶の保管、移動、本体への取付け、取りはずし、廃棄時の取扱いは十分注意してください。取扱いを誤ると、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

② タバコ等の火気に近づけないでください。

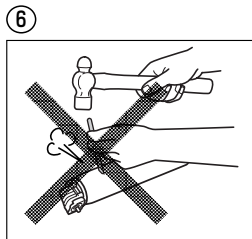
- 爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

②



⚠ 警告

- ③ ガスを吸わないように注意してください。
 - ガスを吸い込むと、めまい、吐き気を起こす恐れがあります。
- ④ 人体に向けて噴射しないでください。
- ⑤ ガス缶は直射日光や車内を避け、0°C～40°Cの間の風通しのよい場所で保管してください。
 - ガスが漏れたり、容器が破裂し、火災や爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
 - 空になったガス缶にも可燃性の噴射ガスが入っており、噴射ガスが膨張し、容器が破損する恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑥ ガス缶に穴を開けたり、切り開いたりしないでください。
- ⑦ ガス缶を焼却、再充電、再利用しないでください。
 - ガスの再充電はできません。
- ⑧ ガス缶は各自治体の廃棄方法に従って処分してください。
 - ガスの排出処理をするときは、40°C以下の風通しがよい火気、可燃物がない野外で、風下に向かって行ってください。くわえタバコをしながらの処理はしないでください。



蓄電池および充電について

- ① 専用の充電器や蓄電池を使用してください。
 - この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② 正しく充電してください。
 - この充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。異常に発熱し、火災の恐れがあります。
 - 温度が0°C未満、または温度が40°Cを超える場合は、蓄電池を充電しないでください。正しく充電されないばかりか、蓄電池の寿命が短くなります。また、破裂や火災の恐れがあります。
 - 蓄電池は、換気の良い場所で充電してください。充電中、蓄電池や充電器を布などでおおわないでください。破裂や火災の恐れがあります。
 - 使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電や火災の恐れがあります。
- ③ 蓄電池の端子間を短絡させないでください。
 - 釘袋などに入れると、短絡して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。

⚠ 警告

④ 感電に注意してください。

- ぬれた手で、充電器の電源プラグに触れないでください。
感電の恐れがあります。

⑤ 周囲状況を考慮して充電してください。

- 充電器・蓄電池は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。感電や発煙の恐れがあります。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用したり、充電しないでください。
爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑥ 蓄電池を火中に投入しないでください。

- 破裂したり、有害物質の出る恐れがあります。

⑦ 損傷した部品がないか点検してください。

- 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。
感電や、ショートして発火する恐れがあります。

⑧ 部品をはずしたり、分解、改造をしないでください。

- 発火したり、異常動作して、けがの原因になります。

⚠ 注意

充電について

① 充電器のコードを乱暴に扱わないでください。

- コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- コードが踏まれたり、引っ掛けられたり、無理な力を受けて損傷することがないように、充電する場所に注意してください。
- 充電器のコードは、定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- 充電器に延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
感電や、ショートして発火する恐れがあります。

② 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- 屋外で充電する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

本製品の使用上のご注意

先にガス釘打機として共通の注意事項を述べましたが、ガスコンクリート釘打機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

警告

コンクリートへの釘打ち作業は次のことに注意してください。

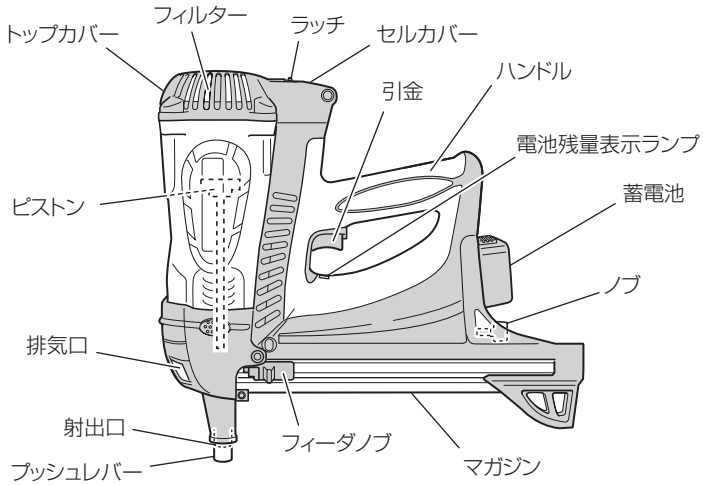
- 釘は指定のコンクリート用焼入釘を使用してください。
釘がコンクリートに入らず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- 釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。
斜めに打つと、釘がコンクリートに入らず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- 釘をコンクリートに直接打つ作業はしないでください。
コンクリート片がはねたり、釘が曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- コンクリートの端に釘を打たないでください。
コンクリートが割れて飛散したり、釘がそれで飛ぶ恐れがあり、けがの原因になります。
- 物を吊り下げる所 (配管の吊り下げなど) へ使用しないでください。

○ 騒音防止規制について

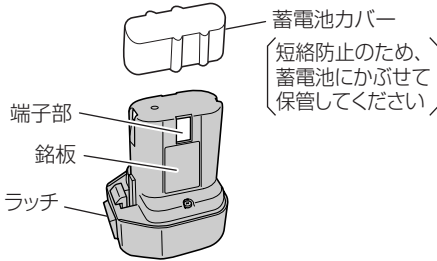
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

各部の名称

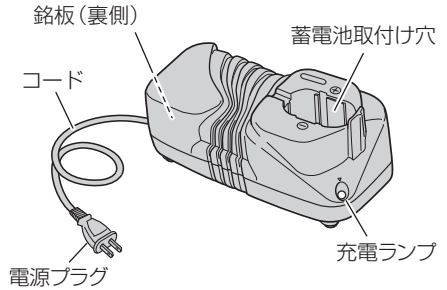
釘打機



蓄電池



充電器



標準付属品

品名・形名	個数
蓄電池(カバー付) EB 714S	1個
充電器 UC 18YG	1個
保護メガネ	1個
六角棒スパナ(4mm)	1個
収納ケース	1個

仕 様

1. 工具本体仕様

形 名	NC 40GA
動 力 形 式	ピストン往復動式
能 力 (使用釘)	プラスチック連結釘：19～38 mm (次項「別売部品」参照)
釘 の 装 て ん 数	40本 (4連)
製 品 の 大 き さ (長さ×高さ×幅)	420 mm×352 mm×119 mm
製 品 質 量	3.7 kg (ガス缶、蓄電池を除いた場合3.4 kg)
釘 の 打 込 み 速 さ	1本/秒、1,000本/時 ※

2. 充電器仕様

形 名	UC 18YG
入 力 電 源	単相交流 50/60Hz 共用 電圧 100 V
入 力 容 量	130 VA
充 電 電 圧	7.2 V～18 V
充 電 電 流	2.6 A
コ ー ド	2心ビニールコード
質 量	0.3kg
使 用 温 度 範 囲	0°C～40°C

3. 蓄電池仕様

形 名	EB 714S
電 池 の 種 類	円形密閉型ニッケルカドミウム蓄電池(ニカド電池)
電 圧	7.2 V
容 量	1.4 Ah
釘 の 打 込 み 本 数	約3,000本/満充電 ※

※使用環境、蓄電池の状態などによって変化します。

別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

1. 釘

⚠ 警告

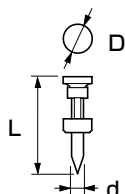
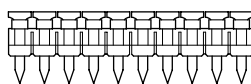
コンクリートへ薄鋼板を取付けるときは、必ずC 2619 の釘を使用してください。他の釘を使用すると、釘がコンクリートに打ち込めず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。

本機は、右図に示すプラスチック連結釘が使用できます。

釘打ち作業の用途に合わせて、下表から適切な釘をお選びください。

釘はガス釘打機をお買い上げの販売店でお求めください。

[プラスチック連結釘] [釘の寸法・形状]
1 巻：10 本



(寸法単位：mm)

用途	形名	長さ L	頭径 D	軸径 d	材料の厚さ	コンクリートへの貫入量	参考例
薄鋼板 (0.8 mm以下) + コンクリート	C2619	19	6.3	2.6	0.8 (薄鋼板)	約 18	<p>薄鋼板 コンクリートへの貫入量 約18mm</p>
木材 + コンクリート	C2625	25			12 (木材)	約 13	<p>使用する釘の長さ 木材の厚さ コンクリートへの貫入量 約13mm~18mm</p>
	C2632	32			15 (木材)	約 17	
	C2638	38			20 (木材)	約 18	

2. ガス缶

品名	日立ガス釘打機用ガス缶	
形名	GC 165H	
内容物	燃料ガス：1-ブテン (約 22 g)、プロピレン他 (約 17.2 g) エチレングリコール (約 0.7 g) 噴射ガス：プロパン他 (約 3.5 g)	
釘の打込み本数	約 1,000 本 / ガス缶 1 本 ※	

※使用環境、使い方などによって変化します。

蓄電池の取付け・取りはずし

⚠ 警告

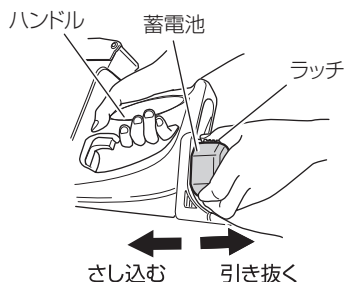
- 蓄電池は必ず、専用の蓄電池を使用してください。
- 蓄電池を火気に近づけないでください。
- 蓄電池を取付け・取りはずしするときは、ガス缶をはずして、射出口を下に向け、引金から指をはなし、プッシュレバーを押し付けしないでください。

蓄電池を取付けるときは、蓄電池の溝をハンドルに合わせて、「カチッ」と音がするまでさし込みます。

取りはずすときは、ハンドルをしっかりと持ち、蓄電池上部のラッチを押しながらかき抜きます。

⚠ 注意

電池は確実に取付けてください。確実にないと、蓄電池が抜け落ちたりして、けがの原因になります。



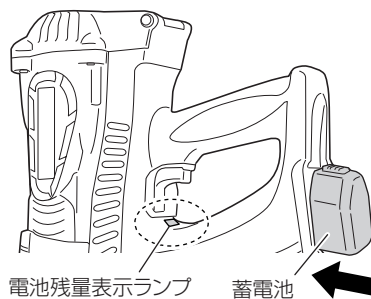
電池残量表示について

蓄電池を取付けるとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

ランプの点灯状態と電池残量は以下のようになっています。

ランプの点灯状態	電池残量
緑点灯	十分電池残量があります。
赤点灯	電池残量が少なくなっています。早めに充電してください。
点灯せず	電池残量がほとんどありません。すぐに充電してください。

電池残量表示は、周囲温度、電池特性等で多少異なりますので、目安として見てください。



充電する

ご使用前、新品時、長期間ご使用にならなかったとき、残量が残り少なくなったときは、次のように充電してください。

警告

手順 ①、② については、充電器の電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

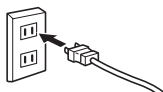
1 電源を確認する

この充電器は交流 100 V 用です。200 V 電源に接続すると、充電器が異常に発熱し、故障します。また、直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。

2 コンセントを確認する

コンセントががたついたり、電源プラグが抜け落ちてしまうときは、接続しないでください。そのまま使用すると危険です。

3 電源プラグをコンセントにさし込む

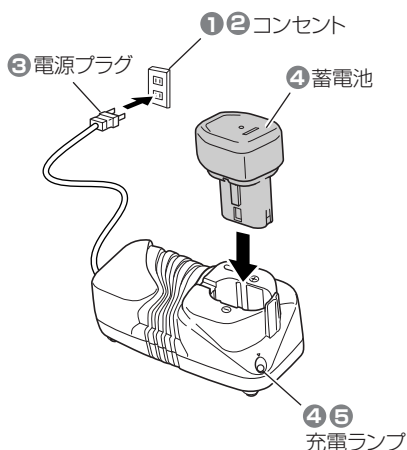


4 蓄電池を充電器にさし込む

- 蓄電池を下側の図に示す向きで、充電器の底に当たるまでしっかりとさし込みます。
- 蓄電池を充電器に取付けますと充電を開始し、充電ランプが点灯します。

5 充電が終わったら

- 充電されると、充電ランプが消えて充電完了をお知らせします。
- 電源プラグをコンセントから抜き、充電器から蓄電池を抜き取ってください。



充電時間：約30分

注 充電時間は周囲温度や蓄電池の状態により長くなることがあります。

●充電時間について

- 新品時や長期間保管しておいた電池は、充電時間が長くなったり充電容量が少なくなることがあります。2～3回の充放電を繰り返すと正常な状態に戻ります。
- 気温や電源電圧が低い場合は、充電時間が長くなります。

●蓄電池を長持ちさせるコツ

- 蓄電池が空(から)になる前に充電してください。
- 直射日光の当たる所に置いたり、使用後など電池の温度が熱くなっているときは充電しないことがあります。電池が冷えてから充電してください。

●充電器と蓄電池の取扱いについて

- 一度充電が完了した後、次の充電まで15分程度充電器を休ませてください。同じ充電器を連続して使用すると、充電器が発熱し、故障の原因になります。
- 短絡防止のため、電池には電池カバーをかぶせて運搬・保管してください。

●充電ランプの点灯をチェックしてください

- 充電ランプが点灯せず、充電開始状態にならないときは、いったんさし込みプラグを電源コンセントから抜き、電池のさし込み具合を確かめてください。
- 充電開始後4時間位たっても充電ランプが消えないときは、充電を中止して、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご持参ください。

●電池の寿命について

- 電池の寿命は、ご使用の環境や使用頻度によって大きく異なります。満充電した電池の作業量が著しく減少したら、寿命と考えられます。
- 電池の寿命がつかたものは、廃棄しないで買い求めの販売店にお持ち込みいただき、新しい電池をお買い求めください。

○新しい蓄電池は、当社純正品をご使用ください

当社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証はできません。

釘の装てん

警告

- 釘を装てんする場合は、ガス缶、蓄電池をはずしてください。
- 釘を装てんする場合は、射出口を下に向け、引金から指をはなし、プッシュレバーを押し付けないでください。

釘を入れる

1 釘をマガジン後方から入れます。
最大4連(40本)装てんできます。

2 マガジン内の釘を前方に送ります。

3 フィーダノブをマガジン後方に引いて、ネイルフィーダが釘の連結後端を押しように静かに戻します。

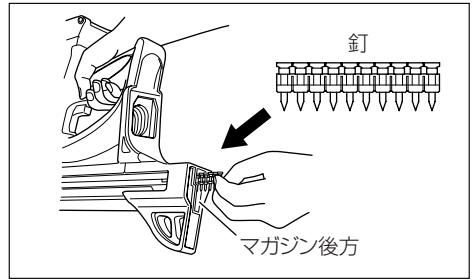
注 ネイルフィーダは、必ず静かに戻してください。
フィーダノブとネイルフィーダを急にはなすと、急激に戻り、釘が変形したり、ばらばらになり、釘づまりの原因になります。

釘を抜き取る

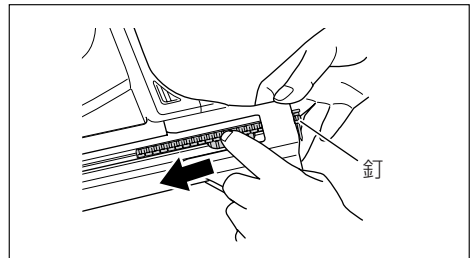
4 フィーダノブを後方に引いて、ネイルフィーダを押しながら、フィーダノブを前方へ静かに戻します。

5 マガジン後方から釘を引き抜きます。

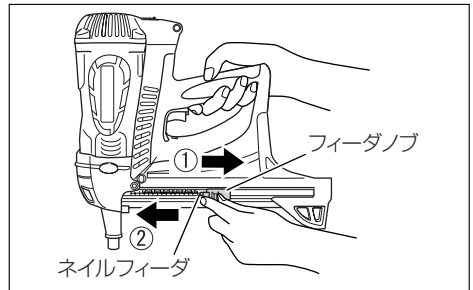
1



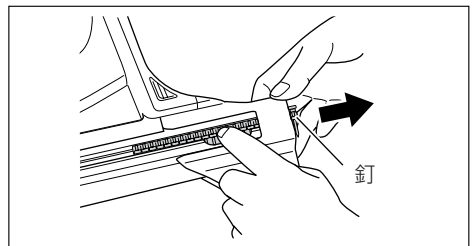
2



3 4



5



釘の打ち方

この釘打機は、「単発打ち」専用となっております。

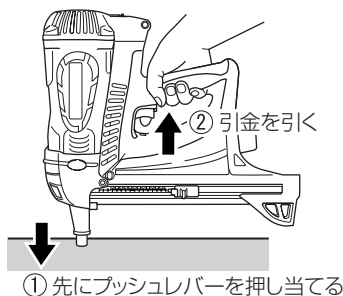
プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当ててから引金を引いたとき釘を発射します。

引金を引いたまま、再度プッシュレバーを押し当てても釘は発射しません。

引金を戻し、プッシュレバーを押し当ててから引金を引いてください。

具体的な動作は以下のようになります。

- ①先にプッシュレバーを押し当てる。
ファンが回転し始める。
- ②引金を引く
混合ガスに点火され、ピストンが作動する。
- ③釘を発射する。



注・逆の手順(先に引金を引き、プッシュレバーを押し当てる)を行っても釘は発射されません。

- ピストンが確実に戻るまで、引金を引いてください。
- 操作が終わってもファンは約6秒回転します。

ガス缶の準備と装てん

ガス缶には、内側容器に液状燃料ガス、外側容器には噴射ガスが充てんしてあり、噴射ガスの圧力で燃料ガスを押し出す構造になっています。

そのため、内側容器の燃料ガスを使い切った後も、外側容器の噴射ガスが残っていますので、空になったガス缶の処理についても十分注意してください。

⚠ 警告

- ガス缶は必ず専用のガス缶を使用してください。
- ガスは可燃性のため、火気と高温に注意してください。
- 炎や火元にガスを噴射しないでください。
- 火の中に入れてください。
- ガス缶を取扱うときは、たばこを吸わないでください。
- ガスを人体に向け噴射したり、吸込んだりしないでください。
- 直射日光が当たるところや温度が40℃以上のところに長時間放置しないでください。
- 低温での使用は避けてください。
- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ガス缶に穴をあけたり、切り開いたりしないでください。
- 使用後、ガス缶は焼却、再充てん、再利用しないでください。

● 計量バルブの取付け方

⚠ 警告

計量バルブはガス缶に正しく取付けてください。

取付けが正しくないと、ガスが噴射されないだけでなく、ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。

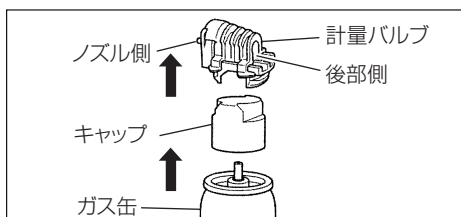
1 ガス缶から、キャップと計量バルブを取りはずします。

2 ガス缶の凹部に計量バルブの凸部を合わせます。

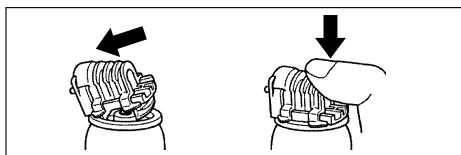
3 計量バルブの後部側を再度『カチッ』と音がするまで押し下げます。

- 注** • 計量バルブ取付け後、計量バルブやガス缶からガスが漏れているときは、新しい計量バルブを再度取付けてください。
- 一度使用した計量バルブは再利用しないでください。

1



2 3

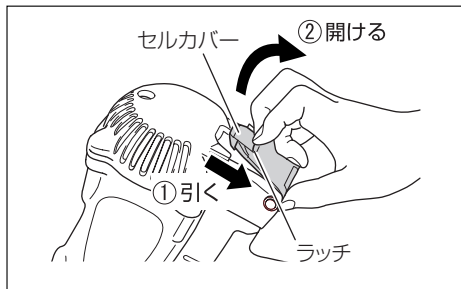


●ガス缶の装てん

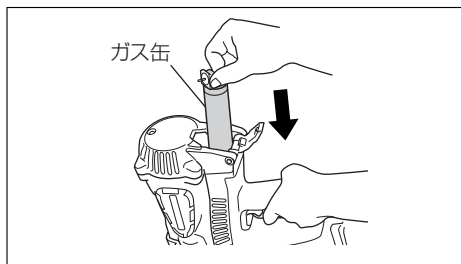
⚠ 警告

- ガス缶を装てんするときは、蓄電池をはずしてください。
- ガス缶を装てんするときは、引金から指をはなし、プッシュレバーを押し付けしないでください。

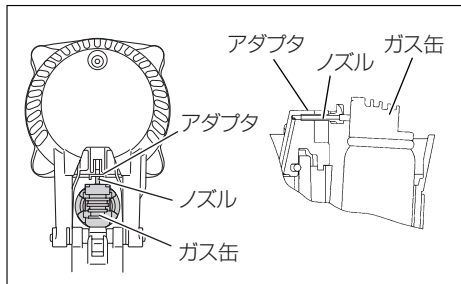
1



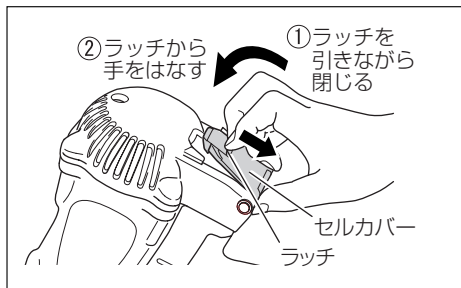
2



3



4



1 ラッチを引きながらセルカバーを開けます。

2 ガス缶をさし込みます。

3 ガス缶のノズル部をアダプタの穴にはめ込みます。

4 ラッチを引きながら、セルカバーを閉じ、ラッチをはなします。

釘を打つ

- コンクリート施工の間仕切りランナー取付け作業
- 配線サドルバンド留め作業
- コンクリートへの木材取付け作業

警告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 子供など作業者以外は近づけないでください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
- 可燃性の液体やガスのあるところで使用しないでください。
- 排気口周辺を触らないでください。
- 直射日光を避け、温度が 40℃ を超えるところには置かないでください。
- 火気に近づけないでください。
- 作業中は、たばこを吸わないでください。
- 釘を打つとき以外は、引金に指をかけたり、プッシュレバーを押し付けしないでください。
- 野外または風通しのよい場所で使用してください。
- ガスや排気ガスを吸わないように注意してください。
- 薄い板やコンクリート、木材の端に釘を打たないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。
- 機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止してください。
- 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。
- 対象物に垂直にプッシュレバーを押し当ててください。
- コンクリートの端に釘を打たないでください。
- 物をつり下げるところ（配管のつり下げなど）へ使用しないでください。

空打ち防止機構について

この釘打機は、釘がなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えています。

マガジン内の釘が 2 本以下になると、プッシュレバーが押し上がりなくなります。

（マガジン内には必ず釘が 2 本残っているの、取り扱いには十分注意してください。）

安全装置について

この釘打機は、プッシュレバーを押し当てた後、引金を引くという操作が重ならないと、釘が発射されない構造になっています。

したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、釘は発射しません。

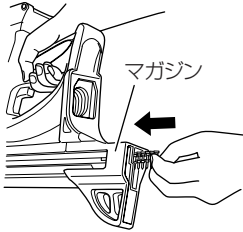
これは、誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。

1 釘を装てんする

蓄電池とガス缶を取りはずしてあることを確認します。

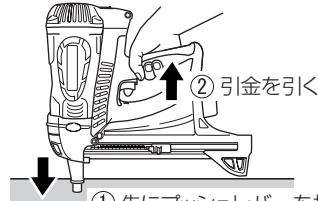
作業の用途にあった形状、寸法の連結釘にマガジンを装てんします。

(P13「別売部品」、P17「釘の装てん」参照)



4 釘を打つ

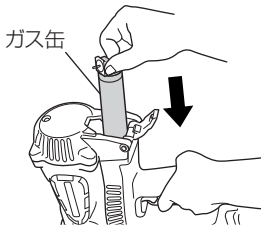
打ち込み対象物にプッシュレバーを垂直に押し当ててから引金を引きます。
(P18「釘の打ち方」参照)



2 ガス缶を装てんする

計量バルブを取付けたガス缶を装てんします。

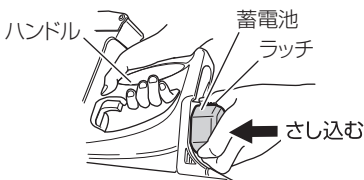
(P19「ガス缶の準備と装てん」参照)



3 蓄電池を取付ける

充電が完了した蓄電池をハンドルに取付け、ライトが緑に点灯するのを確認してください。

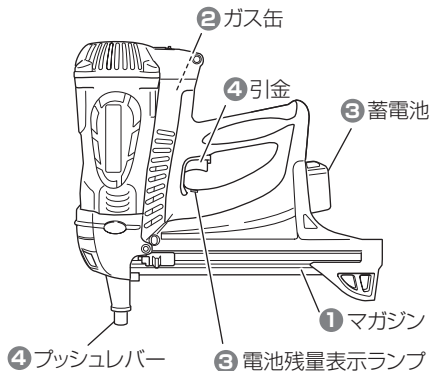
(P14「電池残量表示について」参照)



⚠ 警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後は蓄電池、ガス缶、釘をはずしてください。
- 作業後は、蓄電池、ガス缶をはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

- 注**
- コンクリートに木材を取付ける場合は、打設後、間もない、柔らかいコンクリートにだけ使用してください。硬いコンクリートに使用すると、釘が曲がったり、十分に打ち込めないことがあります。
 - コンクリートへの貫入量が深い場合やコンクリートが硬い場合は、十分に打ち込めないことがあります。



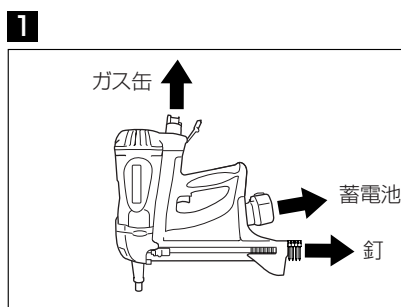
保守・点検

⚠ 警告

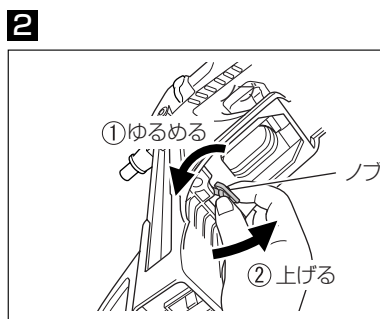
- 釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ず蓄電池とガス缶をはずし、釘を全部抜き取ってください。
- 使用後は、射出口周辺が熱くなるため、機体を冷ましてから、点検、お手入れしてください。

● 釘づまりの直し方

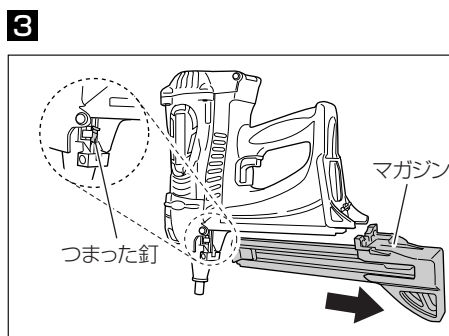
- 1** 安定した台の上に、釘打機を置きます。
ガス缶と蓄電池を取りはずし、マガジン後部から釘を抜き取ります。
(P 17 「釘の装てん」参照)



- 2** マガジンを片手でささえ、ノブをゆるめ、ハンドル側に上げます。

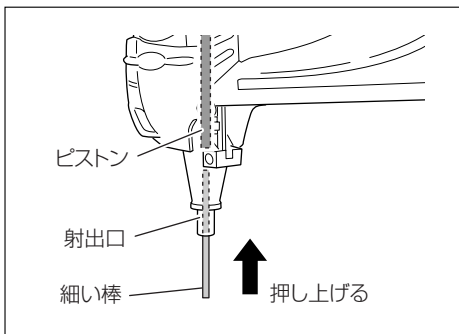


- 3** マガジンを本体からはずし、内部につまった釘や連結プラスチックを取除きます。



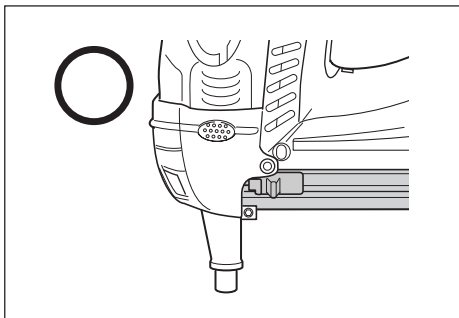
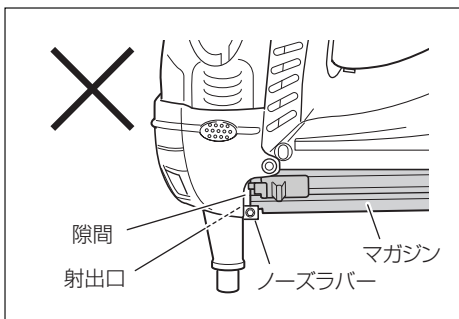
4 細い棒を射出口内に入れてピストンが突き当たるまで押し上げます。

4



5 再びマガジンをセットします。再セット時、マガジンがノーズラバーを挟み込んだままセットしないようにご注意ください。(マガジンと射出口の間に大きな隙間が発生していないか確認してください。)

5

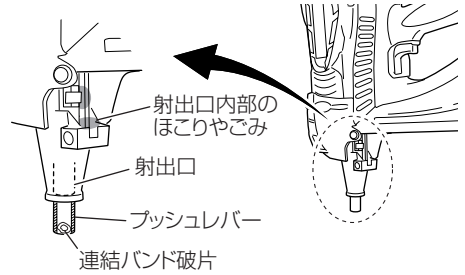


●プッシュレバーと射出口の点検

プッシュレバーがスムーズに摺動するか確認してください。

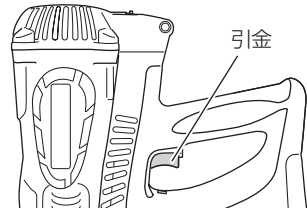
プッシュレバーの摺動部や射出口、射出口内部はときどき掃除してください。

プッシュレバー先端に連結バンド破片等がつまっている場合があります。その場合には、細い棒等で除去してください。



●引金の点検

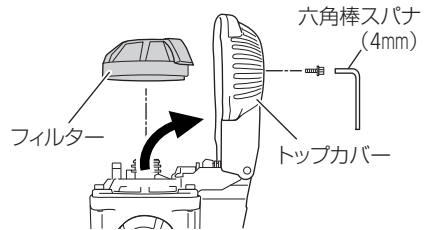
引金がスムーズに動作するか、確認してください。



●フィルターの清掃

1日おきにフィルターの清掃を行ってください。

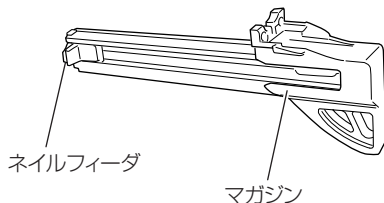
フィルターの清掃は付属の六角棒スパナ(4mm)でトップカバーを開けて行います。フィルターが目づまりや破損したときは、新品のフィルターと交換してください。フィルター交換の際は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。



●マガジンの点検

マガジンをときどき取りはずし、掃除してください。中にたまったごみ、ほこりなどを取除いてください。

注 ネイルフィーダが指でスムーズに引けることを確認してください。



●各部取付ねじの点検

各部取付ねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

●定期点検

性能を維持するために、清掃・点検を定期的に行ってください。

点検は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。

●釘の取扱い方

注 ・釘の扱いをていねいにしてください。

釘を落とすと、プラスチック連結部が切れたり、釘がはずれることがあります。また、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生するため、使用しないでください。

・釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。

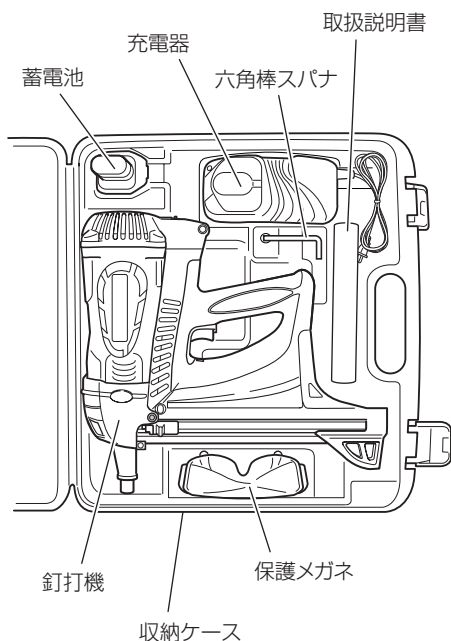
さびの発生や、連結シートに不具合が生じる場合があるので、使用しないときは釘梱包箱などに入れてください。

●作業後の保管

⚠警告

- 作業後は、ガス缶、蓄電池、釘を全部抜き取ってください。
- 40℃以下の室内に保管してください。

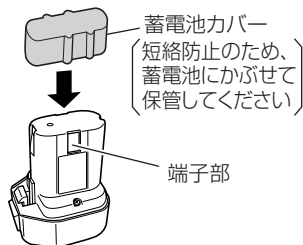
- 作業後は、収納ケースに入れて保管してください。
機体と付属品は下図のように収納ケースに入れてください。
- 長期間使用しない場合は、さび防止のため、鉄の部分には市販の防錆油をうすく塗布してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



⚠警告

蓄電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡(ショート)して発熱、発煙、発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を必ず守ってください。

- 収納ケース等に保管するときは、ケース内に導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡するのを防ぐため、蓄電池は電池カバーを取付けて保管してください。



使用済ガス缶の処理

⚠ 警告

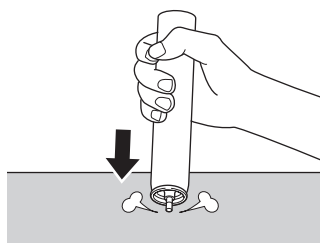
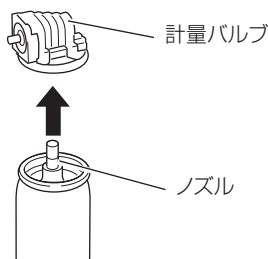
- 使用済ガス缶を火中に投入しないでください。
- ガスの排出処理を行うときは、40℃以下の風通しがよい火気、可燃物がない野外で、風下に向かって行ってください。くわえ煙草をしながらの処理はしないでください。

燃料ガスを使い切った後、次の方法（**1**または**2**）のどちらかで噴射ガスの排出処理を行ってください。

- 1** 市販の穴あけ器具を使用して、ガス缶に穴を開けて噴射ガスを排出する。



- 2** ①計量バルブをガス缶から取りはずす。
②次にノズル部を下に向け、ノズルを押し付けると、噴射ガスが噴出される。



残ガス（燃料ガス）と噴射ガスを排出後、空き缶は各自治体の廃棄方法に従って処分してください。

故障かな…というときは

修理を依頼される前に以下の点検をお願いします。

⚠ 警告

- 誤って動作させないように、十分注意して点検を行ってください。
- 以下の点検以外は控えてください。
指定以外の点検をすると、けがや機体の故障の原因になります。
- 異常のあるときや、以下の点検を行っても症状が変わらない場合には、直ちに点検を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

症 状		考えられる原因	処 置	参照 ページ
釘 が 打 て な い	蓄電池を取付けても 電池残量表示ランプが つかない	蓄電池が充電されていない	蓄電池を充電する。	P15
		蓄電池がハンドルに きちんと入っていない	蓄電池を再装てんする。	P14
	プッシュレバーを 押し上げられない	プッシュレバー摺動部に ごみがはさまっている	ごみを除去する。	P25
		マガジンに釘が装てんされて いない	釘を3本以上装てんする。	P17
	プッシュレバーを 押し上げて ファンが回らない	蓄電池が充電されていない	蓄電池を充電する。	P15
		プッシュレバー先端部に 釘の連結バンド破片等が つまっている	釘の連結バンド破片等を 除去する	P25
	プッシュレバーを 押し上げ ファン回転後、 引金を引いても 動作しない	ガス缶が正しく装てんされて いない	ガス缶が正しく装てんする	P19
		ガス缶にガスが入っていない	ガス缶を交換する	P19
		ガス缶の消費期限が 過ぎている	ガス缶を交換する	P19
		釘がつかまっている	釘を除去し、ピストンを突き 当たるまで上側に押し上げる	P23

症 状	考えられる原因	処 置	参照 ページ
釘をときどき打つが、 連続的に打たない	ガス缶にガスが入っていない	ガス缶を交換する	P19
	釘形状、連結状態が 正しくない	正しい釘に交換する	P13 P17
	マガジン、射出口にごみがつまっている	ごみを除去する。	P26
	マガジン、射出口が変形、 破損している	お買い求めの販売店または 日立工機電工具センターに 修理を依頼する。	—
	ピストンの異常 (元の位置に戻らない)	お買い求めの販売店または 日立工機電工具センターに 修理を依頼する。	—
	フィルターが汚れている	フィルターを掃除する	P25
釘がつまる	釘形状、連結状態が正しく ない	正しい釘に交換する。	P13 P17
	マガジン、射出口にごみがつまっている	ごみを除去する。	P26
	マガジン、射出口が変形、 破損している	お買い求めの販売店または 日立工機電工具センターに 修理を依頼する。	—
蓄電池が充電されない	蓄電池または充電器の異常	お買い求めの販売店または 日立工機電工具センターに 修理を依頼する。	P16

ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決ま
てご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご
依頼ください。

ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご購入の場合や取扱
い上で困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

蓄電池はリサイクルへ

コードレス工具に使用の蓄電池はリサイクル可能な貴重な資
源です。蓄電池や製品の廃棄の際は、リサイクルにご協力い
ただき、最寄りの日立電動工具販売店にご持参ください。

なお、新しい蓄電池は、当社純正品をお使いください。
当社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物(蓄電池を
分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます)は、
安全性や製品に関する保証はできません。



お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモ
しておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号(NO.)
販売店 (TEL)		

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

- 北海道支店 TEL (011) 896-1740 (代) 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号
- 東北支店 TEL (022) 288-8676 (代) 〒984-0002 仙台市若林区卸町東3丁目3番36号
- 関東支店 TEL (03) 5812-6331 (代) 〒110-0016 台東区台東4丁目11番4号(三井住友銀行御徒町ビル)
- 中部支店 TEL (052) 262-3811 (代) 〒460-0008 名古屋市中区栄3丁目7番13号(コスモ栄ビル)
- 北陸支店 TEL (076) 263-4311 (代) 〒920-0058 金沢市示野中町1丁目163番
- 関西支店 TEL (0798) 37-2665 (代) 〒663-8243 西宮市津門大筒町10番20号
- 中国支店 TEL (082) 504-8282 (代) 〒730-0826 広島市中区南吉島2丁目3番7号
- 四国支店 TEL (087) 863-6761 (代) 〒760-0078 高松市今里町1丁目28番14号
- 九州支店 TEL (092) 621-5772 (代) 〒813-0062 福岡市東区松島4丁目8番5号

「電動工具お客様相談センター」 ☎ 0120-208822 (フリーダイヤル・無料)
※携帯電話からはご利用になれません。 (土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)
電動工具ホームページ—<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>



〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
国内営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)